

(様式第8号) 記載例

令和〇〇年〇月〇日

〇〇市町村長 殿

提出年月日を記載してください。
実施状況報告書は令和4年1月末日までに対象活動を実施した農地が所在する市町村に提出してください。

提出先の市町村長名を記載してください。

組織名 環境営農組合

代表者名 農林 太郎

令和3年度 環境保全型農業直接支払交付金に係る実施状況報告書

環境保全型農業直接支払交付金実施要領(平成23年4月1日付け22生産第10954号生産局長通知)の第8の4の(1)のアに基づき、令和3年度の環境保全型農業直接支払交付金の実施状況について、下記のとおり報告します。

記

1. 環境保全型農業直接支払交付金の実施状況 (別紙)

報告内容は全て実施済みである 報告内容は見込みのものも含まれる

(注)該当する項目の□に■を入れること。

該当するどちらかの選択肢に■又は☑を記入してください。

(別紙)

環境保全型農業直接支払交付金の実施状況

1. 自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農業生産活動の実施時期

- ・ 構成員が実施した対象活動についてまとめて記載してください。
- ・ 実施時期欄には、**対象取組の開始から終了までの実施時期を記載**してください。
堆肥の施用: 堆肥の施用時期
カバークロープ(緑肥): 播種からすき込みまでの時期
リビングマルチの取組: 播種からすき込みまでの時期
草生栽培の取組: 播種から土壌に還元するまでの時期
不耕起播種の取組: 播種の時期
長期中干しの取組: 中干しの実施時期
秋耕の取組: 秋耕の時期
有機農業: 播種(又は定植)から収穫までの時期
(果樹等の永年性作物については、前作の収穫から今年の収穫までの時期)
地域特認取組: 都道府県や市町村の指示に従ってください。

化学肥料・化学合成農薬の低減割合の特例を活用する場合は、備考に記入してください。

対象取組		化学肥料及び化学合成農薬を5割以上低減する活動		備考
内容	実施時期	作物名	栽培時期	
堆肥の施用	令和2年9月	たまねぎ	令和2年9月～3年4月	
カバークロープ	令和3年12月～4年3月	水稲	令和3年5月～3年10月	
リビングマルチ	令和3年5月～3年7月	カボチャ	令和3年5月～3年7月	
草生栽培	令和2年5月～3年12月	りんご	令和2年11月～3年10月	3割低減
不耕起播種	令和3年6月	大豆	令和3年6月～3年12月	
長期中干し	令和3年6月～3年7月	水稲	令和3年5月～3年10月	
秋耕	令和3年10月	水稲	令和3年5月～9月	
有機農業	令和3年9月～4年2月	ほうれん草	令和3年9月～4年2月	
有機農業(炭素貯留効果の高い有機農業)	令和3年5月～3年10月	水稲	令和3年5月～3年10月	カバークロープ 12月～翌年3月
冬期湛水管理	令和3年12月～4年2月	水稲	令和3年5月～3年10月	
IPMの取組	令和3年5月～3年10月	水稲	令和3年5月～3年10月	

地域特認取組に取り組む場合は、取組名を記載してください。
取組名が長い場合は、略称で記載することも可能です。

堆肥の施用・カバークロープ・草生栽培・リビングマルチのいずれか実施する**取組名**と**実施時期**を備考に記入してください。

作物名は、「水稲、飼料作物、麦・豆类、いも・野菜類、果樹・茶、花き・その他」程度の分類で記載することも可能です。

- (注1) 備考欄は、化学肥料及び化学合成農薬の低減割合の特例を活用する場合、その低減割合を記入すること。
(注2) 2月以降に活動が終了する場合は見込みを記載すること。
(注3) 有機農業の取組の場合、対象取組の実施時期は主作物の栽培時期を記入すること。
(注4) 必要に応じて欄を追加すること。

2. 自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農業生産活動の実施面積

面積は、対象活動別に構成員が実施した面積を合計した上で、**アール未満を切り捨ててください。**
 ※構成員別に構成員が実施した面積の**アール未満を切り捨てた上で、対象活動別に合計することもできます。**

対象活動	実施面積
堆肥の施用の取組	100a
カバークロープの取組	100a
リビングマルチの取組	100a
草生栽培の取組	100a
不耕起播種の取組	100a
長期中干しの取組	100a
秋耕の取組	100a
有機農業の取組	100a
有機農業の取組(炭素貯留効果の高い有機農業)	100a
冬期湛水管理(有機質肥料未施用、畦補強等実施)	100a
IPMの取組	100a

堆肥の施用、リビングマルチ、有機農業において、以下の場合は行を追加してください。

- 堆肥の施用の取組において、施用量に応じた10a当たりの交付単価の設定をしている場合
- リビングマルチの取組において、「小麦、大麦、イタリアライグラス」に取り組む場合
- 有機農業の取組において、「そば、あわ、ひえ、きび及び飼料作物」、「炭素貯留効果の高い有機農業」に取り組む場合

【必要に応じて行を追加してください】 堆肥の施用の取組(水稻0.5t/10a)	a
【必要に応じて行を追加してください】 リビングマルチ(小麦、大麦等)	a
【必要に応じて行を追加してください】 有機農業の取組(そば、あわ等)	a
【必要に応じて行を追加してください】 有機農業の取組(炭素貯留効果の高い有機農業)	a

地域特認取組のうち、冬期湛水管理、江の設置については、以下のとおり記載してください。

冬期湛水管理(有機質肥料施用、畦補強等実施)	a
冬期湛水管理(有機質肥料施用、畦補強等未実施)	a
冬期湛水管理(有機質肥料未施用、畦補強等実施)	a
冬期湛水管理(有機質肥料未施用、畦補強等未実施)	a
江の設置(作溝実施)	a
江の設置(作溝未実施)	a
合計	1,100a

(注1) 構成員別実施面積(添付様式8)を添付すること。

(注2) 実施面積は、対象活動別(同一の対象活動であっても、単価毎)に構成員の実施面積を合計して、a未満を切り捨てた値を記載すること。

(注3) (地域特認取組名)には地域特認取組名を記入することとし、必要に応じて行を追加すること。

3. 自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農業生産活動の実施を推進するための活動の内容

活動内容	実施時期
○自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農業生産活動の技術向上に関する活動	
<input checked="" type="checkbox"/> ① 技術マニュアルや普及啓発資料などの作成・配布	4月、12月
<input type="checkbox"/> ② 実証圃の設置等による自然環境の保全に資する農業の生産方式の実証・調査	
<input type="checkbox"/> ③ 先駆的農業者等による	
<input type="checkbox"/> ④ 自然環境の保全に資する	
<input type="checkbox"/> ⑤ ICTやロボット技術等を	
○自然環境の保全に資する農	
<input checked="" type="checkbox"/> ⑥ 地域住民との交流会(田植えや収穫等の農作業体験等)の開催	10月
<input type="checkbox"/> ⑦ 土壌診断や生き物調査等環境保全効果の測定	
○その他自然環境の保全に資する農業生産活動の実施を推進する活動	
<input type="checkbox"/> ⑧ 耕作放棄地を復旧し、当該農地において自然環境の保全に資する農業生産活動の実施	
<input type="checkbox"/> ⑨ 中山間地及び棚田地域における自然環境の保全に資する農業生産活動を実施 (農業者団体等の取組面積の過半が中山間地又は棚田地域の場合に限る。)	
<input type="checkbox"/> ⑩ 農業生産活動に伴う環境負荷低減の取組や地域資源の循環利用	
<input type="checkbox"/> ⑪ その他(

実施した推進活動についてチェックしてください(1つ以上実施する必要があります)。
また、実施した時期を記載してください。
※チェックは■又は☑にしてください。

(注)該当する活動内容の□に■を入れる。

「⑨中山間地～」に取り組んだ場合には、チェックしてください。
(実施した時期については、記載不要です)
※チェックは■又は☑にしてください。

4. 添付書類

- ・生産記録
- ・資材証明書等の写し(有機農業の取組を実施した場合)
- ・土壌診断結果書類の写し(炭素貯留効果の高い有機農業の取組を実施した場合)
- ・その他都道府県又は市町村が求める書類

生産記録、その他都道府県や市町村が求める書類を添付してください。

※ 生産記録については特に様式を定めていません。

生産過程等において使用した肥料及び農薬、導入した等、要件に即して対象活動を実施したことが確認できれば、「有機JASの認証書の写し又は認証期間に提出した書類」や「都道府県等の特別栽培農産物等の認定書の写し又は認定機関に提出した書類」を提出することで生産記録に代えることができますが、記載内容によっては追加で書類の提出を求める場合がありますので、都道府県や市町村の指示に従ってください。

自然環境の保全に資する生産方式を導入した農業生産活動の実施面積

組織名 環境営農組合

- ・ 構成員別に記載してください。
- ・ 対象取組については、様式第8号の別紙の2を参考に記載してください。

1. 構成員別実施面積

氏名	対象取組 (内容)	化学肥料及び化学合成農薬を5割以上低減する活動(作物名)	実施面積 (a)	備考
農林 一郎	堆肥の施用	たまねぎ	100	
農林 一郎	カバークロープ	水稻	100	
農林 一郎	リビングマルチ	カボチャ	100	
農林 二郎	草生栽培	りんご	100	
農林 二郎	不耕起播種	大豆	100	
農林 三郎	長期中干し	水稻	100	
農林 三郎	秋耕	水稻	100	
株式会社環境	有機農業	ほうれん草	100	
株式会社環境	有機農業 (炭素貯留効果の高い有機農業)	水稻	100	
株式会社環境	冬期湛水管理 (有機質肥料未施用、畦補強等実施)	水稻	100	
株式会社環境	IPMの取組	水稻	100	
合計(a)			1,100	

作物名は、「水稻、飼料作物、麦・豆類、いも・野菜類、果樹・茶、花き・その他」程度の分類で記載することも可能です。

(注1) 生産者別、対象取組別に記載すること。

(注2) 必要に応じて行を追加すること。